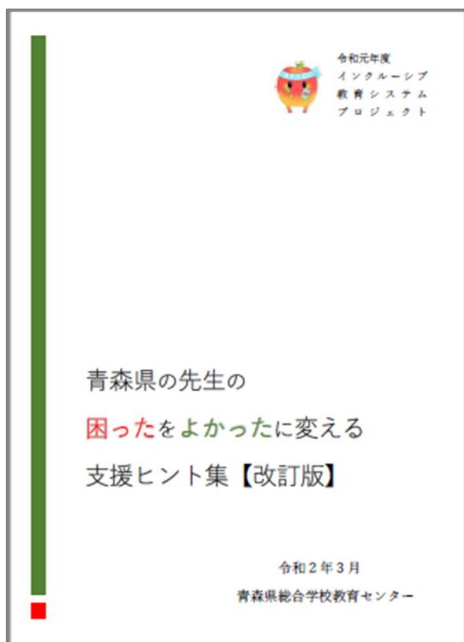


学年を越えたチームで 効果的な支援を考えよう



支援ヒント集を
用意してください♪

研修の流れ

1. 研修の説明 【全体】
2. 講義 【全体】
3. 演習・協議 【グループ】
4. 共有 【全体】
5. 助言 【全体】
6. 省察・振り返り 【個人】

1. 研修の説明

中学校における課題

- インクルーシブ教育システムの構築に関する研修が十分ではない。
- 特別な配慮を必要とする生徒への支援に関する検討が、学年内教職員に限られることが多い。
- 支援に係るPDCAサイクルがうまくつながっていないことがある。

研修の目的

1 学期のアセスメントを基に、対象生徒に関わる学年を越えた教職員がチームになって、2 学期の支援策について検討、共有する。

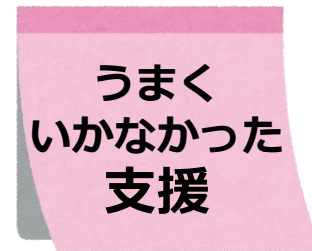
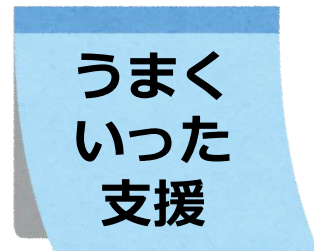
※対象生徒への支援について、P D C A サイクルを、短期（普段）－中期（学期ごと）－長期（1年）とつなげることを意識しましょう。

研修の流れ：全体→グループ→全体→個人

対象生徒について考える

- ◆青色とピンク色の付箋に以下のように記入する

対象生徒との関わり方を振り返り、**う**
まくいった支援と**うまく**いかなかった支
援を考えてみよう。



2. 講義

(テーマ例)

特別な配慮を必要とする生徒への支援

- 特別支援教育の視点を取り入れた教室環境や授業づくりの工夫
- 特別な配慮を必要とする生徒の行動の捉え方
- 支援を考えるときのポイント

かかわる側が見方・考え方を考える

困った生徒 → 困っている生徒

教師の言葉掛け

何度言ったら分かるんだ!

今日はここまでできたね。

支援ヒント集 #1

例：グループ活動への参加が難しい生徒 (1/2)

相手の気持ちを考えない発言をしたり、一方的に話し続けたり...

他の生徒と全く関わろうとしないんです...

困った行動の理由

- グループ活動で何をしたらよいのかわからない?
- 相手の気持ちを押し量ることができない?
- 集団での活動への不安がある?
- 周りのやりとりについていけない?

✓ その生徒なりの理由
やきつかけが必ずあります

✓ 中学校段階であれば、本人に困っていることはないか尋ねてみてもよいでしょう

支援ヒント集 #7

※講義用スライド資料はダウンロードできます

3. 演習・協議 (1/4)

◆グループ内で役割分担をする

- ・司会者、記録者、発表者

①個人の思考、付箋記入（5分）

- ・青色とピンク色の付箋に以下のように記入する

講義内容を踏まえて、対象生徒との関わり方を改めて振り返り、**うまくいった支援(K)**と**うまくいかなかった支援(P)**を書き足す

うまく
いった
支援

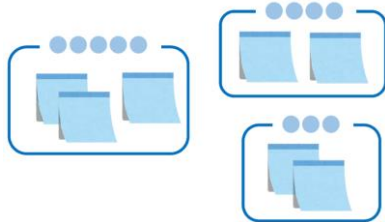
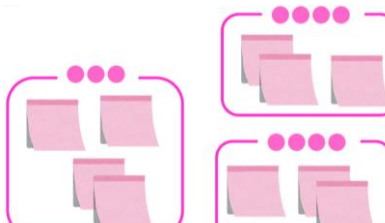
うまく
いかなかった
支援

3. 演習・協議 (2/4)

②付箋貼付、整理・分類

- ・付箋をK P Tシートに貼りながら説明する
(一人3分程度)
- ・内容的に近いものを重ねたり分類したりして、
タイトルを付ける (3分)



課題(テーマ) : 特別な支援を要する生徒に係る2学期の支援策について	
Keep (うまくいった支援) 	Try (学級担任や教科担任等で試したい支援策や解決策)
Problem (うまくいかなかった支援) 	

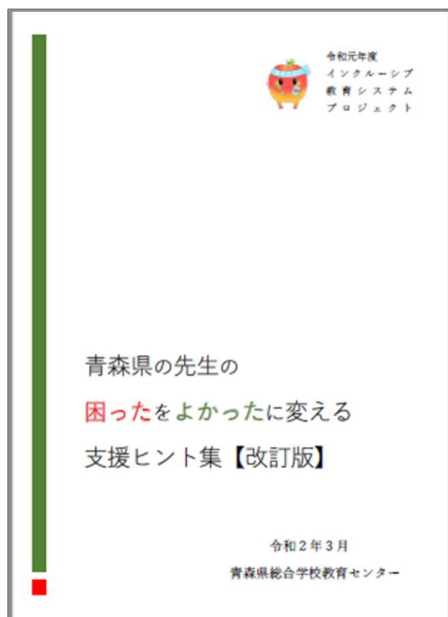
3. 演習・協議 (3/4)

③個人の思考、付箋記入 (5分)

- ・黄色の付箋にTについて記入する

試したい支援策や解決策を考えよう

試したい
支援策
解決策



(3) グループ活動への参加の促し方が難しい

相手の気持ちを考えない
発言をしたり、一方的に話
し続けたり
(県内高校教諭)

他の生徒と全く関わろう
としないんですー
(県内中学校教諭)

想像してみましょう、子供の気持ち

その子供は、どうして相手の気持ちを考えない発言をしたり、一方的に話したり、他の子供とかかわらなったりするのでしょうか。もしかしたら、その理由やきっかけがあるかもしれません。小学校高学年以上であれば、本人に困ったことはないか尋ねてみてよいかもしれません。また、グループ活動のどんな場面でトラブルが起きやすいのか観察してみると、本人なりの理由が予想できることがあります。

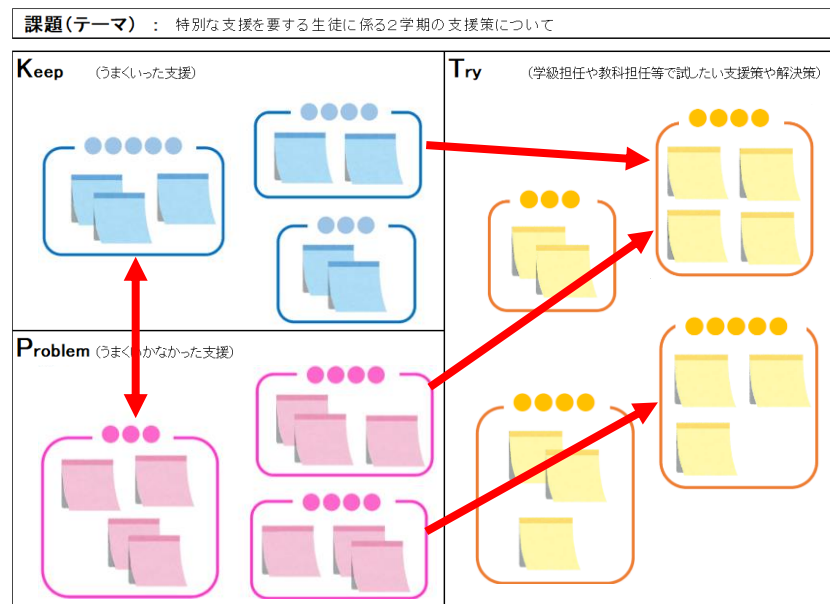
考えてみましょう、困った行動の理由

- グループ活動で何をしたらよいかわからない
- 相手の気持ちを推し量ることができない。
- 集団での活動への不安がある。
- 周りのやりとりについていけない。

3. 演習・協議 (4/4)

④付箋貼付、整理・分類

- ・付箋をK P Tシートに貼りながら説明する
(一人3分程度)
- ・関連する付箋を矢印等で結び、整理する
(3分)



4. 共有

①ポスター発表（5分）

- ・グループの発表者が、KPTシートを使いながら協議内容について発表する
- ・発表者以外の人とは他グループの発表を聞きに行く

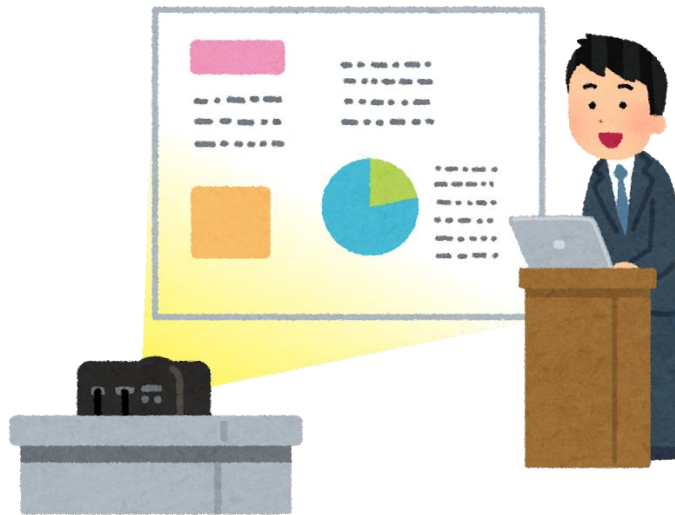


②まとめ（5分）

- ・発表者以外の人とは、自分のグループに戻り、他グループの発表で聞いてきた内容を報告して共有する

5. 助言

◆講師の助言から支援策の留意点を押さえ、 具体をイメージする



(3) グループ活動への参加の促し方が難しい



相手の気持ちを考えない
発言をしたり、一方的に話
し続けたり…
(県内高校教諭)



他の生徒と全く関わろう
としないんです…
(県内中学校教諭)



想像してみましょう、子供の気持ち

その子供は、どうして相手の気持ちを考えない発言をしたり、一方的に話し続けたり、他の子供とかかわらなかつたりするのでしょうか。

もしかしたら、その理由やきっかけがあるのかもしれません。小学校高学年以上であれば、本人に困ったことはないか尋ねてみるのもよいかもしれません。また、グループ活動のどんな場面でトラブルが起きやすいのか観察してみると、本人なりの理由が予想できることがあります。



考えてみましょう、困った行動の理由

- グループ活動で何をしたらよいか分からない
- 相手の気持ちを推し量ることができない。
- 集団での活動への不安がある。
- 周りのやりとりについていけない。

6. 省察・振り返り

- ◆それぞれの立場で、実践する支援の優先順位を決定し、各グループの中で共有する

予想される**効果**と**着手しやすさ**から、**実践する支援策**を決めよう！



支援ヒント集の活用等 (1/4)

- 職員会議や学年会議、ケース会議等、様々な場に持ち込んで、対象生徒の支援について、「鍵となる考え方や支援策」を共有し、学校全体で組織的に活用していこう！
- 対象生徒の実態や有効な支援等に関するページにどんどんメモを書き込んで、自分のものにしよう！

支援ヒント集の活用等 (2/4)

◆それぞれの**職務**に応じて活用しよう！

〈学級担任〉

生徒の対応に「困ったな」と感じたときのヒントに

〈学年主任〉

学年で生徒の支援策を考えるヒントに

〈養護教諭〉

生徒や教職員の悩みや不安に寄り添うヒントに

〈研修主任〉

事例検討の際、検討のプロセスの参考に

支援ヒント集の活用等 (3/4)

◆それぞれの**職務**に応じて活用しよう！

〈特別支援コーディネーター〉

- ・生徒への配慮事項を考える際の参考や事例を挙げるときに

(生徒の様子为例)

- * 授業などのルールが分かっていない
- * 相手の気持ちを推し量ることができない
- * 周りのやりとりについていけない

- ・子供理解を深めるために活用

(例) P.31～ 自閉症スペクトラム障害当事者の声より

(視覚過敏とは？ 文章読解・運動能力の困難とは？)

支援ヒント集の活用等 (4/4)

- ◆個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成に活用しよう！（「合理的配慮」や「手立て」の欄）

個別の教育支援計画		【 学校】	
本人氏名		性別	生年月日
保護者氏名		学年・級	
住 所	(TEL)		
生活の様子	得意なこと 好きなこと		
	苦手なこと		
本人・保護者の 願 望	本 人		
	保 護 者		
合理的配慮			
長期目標 (期間：年)			

個別の指導計画		【 学校】	
学年・組		本人氏名	
学校生活 の様子	うまくいっているところ		
	つまづいているところ		
短期目標 (期間：)			
手立て			